

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	日本経済論 (Japanese Economy)					担当教員	石川 英樹 (イシカワ ヒデキ)	
2020-23 年度 入学者 (20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2036-0-33-082	専門科目	選択	2 単位	3 年次	前期		
2024-25 年度 入学者 (24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2436-0-33-021	専門科目	選択	2 単位	3 年次	前期		

① 授業のねらい・概要
現実の日本経済を理解するために近現代の日本経済の発展プロセスを振り返り、具体的な経済活動や経済構造に興味を持ち、これからの日本経済の展開に関してアプローチをしていけるための準備となることを目的とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業である。
③ 授業の進め方・指示事項
毎回、配布資料により解説を行い、演習問題による理解の確認と知識定着を進める。期末試験に加えて数回の小テストにより、平素からの学びの成果を確認する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「マクロ経済学」「ミクロ経済学」
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
特にもうけない。各回、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
八代尚宏（2017）『日本経済論・入門 戦後復興からアベノミクスまで』（新版）有斐閣
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
日本経済における現実の様々な問題を題材にして、私たちを取り巻く経済環境に対する理解力・説明力とともに、将来の見通しを論理的に考察する能力の向上に寄与する授業を目指す。
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
（i）現在の日本経済（現状，課題）の基本について他者に説明できる。 （ii）過去の日本経済の構造変化等について、他者に説明できる。 （iii）現在と過去に関する理解をもとに、日本経済の将来展望について他者に説明できる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 現在の日本経済	日本経済の現状に関して資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	日本経済の現状に関して資料等に頼らず説明できる	日本経済の現状に関して資料等を見ながら説明できる	日本経済の現状に関して資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	日本経済の現状に関して資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 過去の日本経済	日本経済の構造変化等について各内容・目的・課題を資料等に頼らず他者に説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	日本経済の構造変化等について各内容・目的・課題を資料等に頼らず説明できる	日本経済の構造変化等について各内容・目的・課題を資料等を見ながら説明できる	日本経済の構造変化等について各内容・目的・課題を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	日本経済の構造変化等について各内容・目的・課題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 日本経済の将来展望	日本経済の将来展望について資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた分析も説明できる	日本経済の将来展望について資料等に頼らず説明できる	日本経済の将来展望について資料等を見ながら説明できる	日本経済の将来展望について資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	日本経済の将来展望について資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%			30%		100%
(i) 現在の日本経済	20%	10%			10%		40%
(ii) 過去の日本経済	20%	10%			10%		40%
(iii) 日本経済の将来展望	10%				10%		20%
フィードバックの方法	テスト結果は返却して解説する。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	イントロダクション：日本の GDP	配付資料による GDP の構造や構成の理解	60 分
2	昭和の日本経済：戦争からの復興	配付資料による日本経済の構造変化や対外情勢との関連性を理解する	120 分
3	昭和の日本経済：復興から経済成長へ	配付資料による戦後復興期の日本経済を考察	240 分
4	高度経済成長① 経済成長と GDP	配付資料による配布資料高度成長の始まる要因分析とデータの考察	120 分
5	高度経済成長② 大量消費	配付資料による需要面から見た高度成長	180 分
6	高度経済成長③ 大量生産	配付資料による供給面から見た高度成長	180 分
7	1960 年代 高度経済成長期の産業構造	配付資料による産業構造の変化を考察	180 分
8	高度経済成長期の企業活動、振り返り	配付資料による高度成長期における企業活動の動向を理解	240 分
9	高度経済成長期における資本市場① 金融と企業	配付資料による高度成長期における金融（銀行）と企業のあり方を考察	120 分
10	高度経済成長期における資本市場② 証券と企業、振り返り	配付資料による高度成長期における金融（証券）と企業のあり方を考察、今までの復習まとめと問題演習の見直し	180 分
11	貿易構造、オイルショック	配付資料による貿易構造から見た日本経済と海外経済との関連性の理解	180 分
12	貿易不均衡と円高不況	配付資料による貿易摩擦や円高などのトピックから見た日本経済の理解	180 分
13	バブル経済と「失われた 10 年」、振り返り	配付資料によるバブル経済とその崩壊後の長期的な景気低迷の要因を分析	240 分
14	リーマンショックと日本経済	配付資料によるリーマンショックの要因と日本経済への波及効果を考察	180 分
15	財政赤字、少子高齢化、デフレ問題、コロナ禍の経済など、振り返り	配付資料による日本経済の現状の理解と将来の課題を考察、今までの復習	180 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。新聞記事などを用いた現実の現象説明への応用にも取り組む。公務員試験の過去問等の活用による演習も取り入れる。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性